

令和7年度 学校だより

令和8年1月7日発行

若草もゆる

【学校経営の基本方針】

生徒の『よさ』を認め、発揮し、自己肯定感を育む



第36号

南城市立佐敷中学校

～ 次の段階(進級や卒業後)へつなげる大切な三学期～

目標の達成に向けてまず動く

保護者の皆様、地域にお住まいの皆様、あけましておめでとうございます。本年も、本校教育活動へのご理解とご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。さて、1月6日(火)1校時に体育館で、全校生徒と教職員が参集して、三学期始業式を実施しました。式では、各学年を代表して3名の生徒から、三学期の具体的な行動目標や卒業・進級に向けた「心の準備」等の発表がありました。引き続き、校長先生から三学期の始まりの日にちなんだ校長講話と始業式の前に催した「幕開け」のことについての説明がありました。その後、三学期の新しい学級役員(級長、副級長、出席係)への認証状交付式をおこないました。

三学期始業式の前に、新年を祝う集い「幕開け」を催しました。この「幕開け」では、琉球舞踊を習っている5名の生徒と、三線を習っている4名の生徒による「かぎやで風」を披露してもらいました。9名の生徒の皆さん、人前で披露するのは緊張したと思いますが、出来映えは最高でした。新年を皆で迎えることができた喜びと、全校生徒・教職員が明るく元気に学校生活を過ごしていくことを願い、初の試みとして開催しましたが、フロアで鑑賞する全校生徒と教職員は皆、集中して真剣に鑑賞していたのが印象的でした。今回、開催にあたっては、生徒会執行委員の皆さんのが運営全般を担い、「新春」の大文字の書を2年男子生徒が手がけてくれて、また、舞踊と三線の演出指導は、本校教員が対応してくれました。三学期のスタートにふさわしい「幕開け」となりました。



三学期の始業式では、各学年を代表して3名の生徒に、二学期の反省等を踏まえたうえで、「三学期の抱負」と題して、決意等を述べてもらいました。その挨拶文を掲載します。(字数の関係で一部抜粋しました)


私達一年生は明るく元気なところが良さです。しかし、集中力がない、ふざけ等まだまだ改善すべき点があります。二学期の合唱コンクールでは、始めはふざけて歌う雰囲気ではありませんでしたが、徐々に「仲間を大切にする」良さを生かして、響きのある合唱にすることができました。

三学期は、一年生のまとめの学期で進級へ向けての準備の学期です。二年生や三年生の先輩達の「よさ」を見習い、新しく進級してくる一年生に頼れる存在として、お手本になれるような二年生を目指して、これからも挑戦し続けて充実した三学期になります。【一年生代表】


いよいよ三学期が始まりますが、二学年として取り組んでいきたいことが2つあります。1つめは授業に向かう姿勢を良くすることです。集中して先生の話を聞き、積極的に発言することで、授業を盛り上げていきたいです。どの授業でも立腰の心を持ち、取り組んでいきたいです。2つめは、休み時間の過ごし方の改善です。2分前着席も徹底し、落ち着いて授業に臨めるようにしたいです。三学期は三年生になるための準備の期間です。二年生一人一人が当たり前のこと当たり前に行なうことを意識し、頑張っていきたいです。【二年生代表】


三学期は、私達三年生にとって中学校生活の締めくくりとなる特別な学期です。何よりも大きな目標は高校合格です。不安や緊張を感じることもありますが、これまで積み重ねてきた努力を信じ、最後まで諦めずに挑戦していきたいと思います。受験は決して一人で乗り越えるものではなく、友達と励まし合い、先生方に支えていただき、家族に見守られているからこそ立ち向かえるものだと感じています。周囲への感謝の気持ちを忘れず、一日一日を大切に過ごしていきたいです。残り少ない中学校生活ですが、仲間と過ごす時間や、何気ない日常を大切にしながら、次の進路へつながる学期になるよう全力で取り組んでいきたいと思います。【三年生代表】